令和5年度 日本語教育能力検定試験 解答例

千駄ヶ谷日本語教育研究所

試験Ⅰ

問題1	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)
	1	2	5	4	3	5	1	3	5	3
	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)					
	1	3	5	3	3					

問題2	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
	4	2	1	3	4

問題3	A					B				
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)
	1	3	1	3	2	1	3	4	4	2
	C					D				
	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)
	4	1	2	3	3	1	2	2	3	4

問題4	問1	問2	問3	問4	問5
	2	1	4	1	2

問題5	問1	問2	問3	問4	問5
	3	4	2	3	4

問題6	問1	問2	問3	問4	問5
	3	4	2	3	1

問題7	問1	問2	問3	問4	問5
	4	2	3	4	3

問題8	問1	問2	問3	問4	問5
	4	2	1	4	3

問題9	問1	問2	問3	問4	問5
	1	2	4	2	1

問題10	問1	問2	問3	問4	問5
	2	1	3	2	3

問題11	問1	問2	問3	問4	問5
	3	1	2	1	4

問題12	問1	問2	問3	問4	問5
	4	2	3	1	4

問題13	問1	問2	問3	問4	問5
	4	2	4	1	2

問題14	問1	問2	問3	問4	問5
	2	4	3	1	1

問題15	問1	問2	問3	問4	問5
	2	4	3	2	1

試験Ⅱ … 略

◆ この解答例は千駄ヶ谷日本語教育研究所で作成したもので、検定試験実施団体から公表されたものではありません。

ⓒ千駄ヶ谷日本語教育研究所 この資料を複製し第三者へ譲渡、または転載することを禁じます。

試験Ⅲ

問題1	問1	問2	問3	問4	問5
	1	2	3	3	4

問題2	問1	問2	問3	問4	問5
	3	4	2	1	2

問題3	問1	問2	問3	問4	問5
	3	2	3	1	4

問題4	問1	問2	問3	問4	問5
	2	2	3	4	1

問題5	問1	問2	問3	問4	問5
	2	1	2	3	3

問題6	問1	問2	問3	問4	問5
	3	4	2	1	2

問題7	問1	問2	問3	問4	問5
	4	3	4	2	4

問題8	問1	問2	問3	問4	問5
	1	2	2	1	4

問題9	問1	問2	問3	問4	問5
	2	4	1	4	3

問題10	問1	問2	問3	問4	問5
	1	4	4	1	2

問題11	問1	問2	問3	問4	問5
	3	1	3	1	4

問題12	問1	問2	問3	問4	問5
	3	1	4	1	4

問題13	問1	問2	問3	問4	問5
	2	3	1	4	3

問題14	問1	問2	問3	問4	問5
	4	1	3	2	1

問題15	問1	問2	問3	問4	問5
	4	3	1	2	2

問題16	問1	問2	問3	問4	問5
	1	4	2	3	3

◆この解答例は千駄ヶ谷日本語教育研究所で作成したもので、検定試験実施団体から公表されたものではありません。

ⓒ千駄ヶ谷日本語教育研究所　この資料を複製し第三者へ譲渡、または転載することを禁じます。

試験Ⅲ

問題17 ※下線＿＿＿＿がキーワードです。

トップダウンの読み方を促進する意義は、速読の力、要約力がつくことにある。この力はボトムアップの読み方では身につかない。
授業は、「高齢者の運転」というテーマでブレインストーミングを行う。これはスキーマの活性化である。次に連想された事柄をもとに、学習者同士が話し合い、文章内容を予測する。
文章を読む前にタスクを与える。そのタスクとは文章の要約である。要約したものは、学習者同士で確認し、不足する内容は補い合う。要約はクラス全体で内容を検証しつつ、同時に文章全体の内容確認を行う。その後、最初に予測した内容は正しかったか、理解できなかった点とその理由など、読解の振り返りを行う。
ここでの読みは、文字情報を解読する受身的な読みではない。読み手が内容について予想を立て、その予測という仮説を検証・修正しながら読むという能動的な読みである。また、学習者同士による協働学習は、その相互作用により学習者の視野の広がりや読みのスキルの向上が期待できる。（417字）

まず、スキーマを活用する。記事のタイトルや冒頭を提示し、その文章の予想を自由に書き出させる。これにより、既存の知識や経験を活用して、内容を予測するスキルを養う。次に、学習者をグループに分ける。各自は異なる仮説を持っているため、仮説を共有する場を提供することで、仮説を検証し合うプロセスが能動的な読みを奨励し、新たな仮説を生み出す手助けをする。最後に、クラス全体で情報を共有し、異なる視点や意見を収集し、個々の理解を深化させる。このアプローチにより、学習者はスキーマと仮説を通じて文章を予測し、読み進めるスキルを向上させ、ピア・ラーニングの要素を取り入れることで、他者の視点を受け入れながら自分の理解を豊かにできる。このような授業は、単なる情報受け入れではないため、トップダウンの読み方を促進し、文章の論理的な構造がつかみやすくなる。これにより、学習者は情報の取捨選択や文章の主題と詳細を把握しやすくなる。（402字）

トップダウンで読解をする場合、既有知識をもとに仮説を立て、その検証・修正を繰り返しながら理解をする。この作業は「能動的に読む力」、つまり自分の既有知識と照合し、文章の内容に対して疑問や違和感を抱きながら読む力が必要となり、トップダウンの読み方に慣れない学習者には難しい。そこでピア・ラーニングを取り入れ、理解の過程をクラスメートと共有することで、能動的に読む力をつけていく。まず、文章を読む前に「高齢者の運転免許の返納」について学習者の持つ既有知識や考えを話し合わせる。結果、スキーマが活性・形成でき、文章を読む際の理解の助けになる。次に、文章を一行もしくは段落ごとに提示し、学習者間で次に書かれていることを予測させる。事前に仮説を立ててから読むことで、単なる内容の理解ではなく、能動的に読めるようになる。読解作業後は話し合い等を行い、文章を読むことで得た情報を元々持っていたスキーマに統合させたり整理したりする。（407字）

◆この解答例は千駄ヶ谷日本語教育研究所で作成したもので、検定試験実施団体から公表されたものではありません。

◆今年度の試験についての感想◆

今回の問題は記述式問題を含め、全体的に解答が導きやすい素直で、基本的な問題がほとんどだった。毎年、出題問題の分析を行っているが、これまでの検定試験問題とは異なり、”重箱の隅をつつく” 問題は、若干を除き、なくなっており、正直に言って、”面食らって”しまった。 この検定試験は、「基礎的な知識」、「基礎的な問題解決能力」を測定する試験である。しかし、過去に出題された問題は、その測定内容を大きく逸脱している。本来は、今年度の問題のように基礎的な内容を出題すべきではなかったか。来年度は、国家資格を取得するための「日本語教員試験」が実施される予定である。この試験も「基礎的な知識」、「基礎的な問題解決能力」を測定する試験とされている。それだけに、何をいまさら、という気持ちでならない。それから 試験Ⅲ問題15問1であるが、『みんなの日本語』など公的機関でないところが発行する教科書を問題にしていいのだろうか。気になるところである。

ⓒ千駄ヶ谷日本語教育研究所 この資料を複製し第三者へ譲渡、または転載することを禁じます。